ＪＲ東海労ニュース

No.　７１３
２００５年7月5日
ＪＲ東海労働組合

JR連合14回大会
泣き言のオンパレード！

明石会長の泣き言

①西日本は営利優先に走りすぎたとの批判があるが、本州３社の中ではローカル線の比率が高く、京阪神地区で私鉄との競争に走らないと稼げなかったことも事故の要因のひとつ。
②組合名称が紛らわしく JR 連合に多くの批判が集中した。
③彼（JR 総連）らは、東海や九州でも会社批判キャンペーンを始めたが安全に名を借りた会社倒産運動だ。

西労組代議員の泣き言

①私たちは責任組合として安全について全力で取り組んできたが、チェック機能を果たせなかった。
②日勤教育を受けた組合員へのアンケートまで実態を把握していなかった。
③対立と協力を基調とした労使関係を築く。

角田新会長の泣き言

①チェック機能は果たされていなかった。
②組合も会社も同じ責任を負っている。体質を変えるとは組合内部の内容も変えるということ。
③事故の未然防止のために現場の組合員の声が現場長にしっかり伝わる体質を築くべき。

以上は『ACCESS』7/1 付に掲載された JR 連合の大会記事からの抜粋である。JR 連合・JR 東海ユニオンの幹部にあらためて問う！

信楽事故・救急隊員轢死事故でどのような対応をとったのか！　チェック機能はなぜ果たされないのか！　日勤教育をやった JR 連合の組合員は事故の後どう反省しているのか！ JR 西日本はなぜ犠牲者は 106 名というのか！　対立と協力というが、どう対立するのか！

ぜひ、わかりやすく説明していただきたい。

反省は具体的に！
チェック機能を果たせなかった責任
日勤教育をやった側も組合員という責任